

ところが、窮乏れは通ずるといふ。はからずも昨年秋、大分県の「ふるさと大分」振興運動で、わが富尾神社の神踊と杖踊かとりあげられ、後継者育成のためは、助成金の交付を受けることになりました。県下で数多い無形文化財、民俗芸能の保存団体があるのに、僅か五分所の内の指定に入り、県並びに市から助成金を受けるといふのです。

今年正月、部落の総会初寄りで、部落民全員加入して保存会を結成することに決まりました。そしてこのように、ことに熱心で、祭礼行事に最もくわしい多田太郎吉氏を保存会長に推挙し、その他老人、中年の指導者を頼み、月に三、四回づつ、ひまきを見つけて練習して来ました。若い人達を指導したり、新しく協力する人を加えて、四月の祭典に胡におうよう、練習に励んでいます。その練習の柳度、佐伯市の教育委員会の方が御足労して下さり、なにかと励ましをいたしています。

経費もいります。神踊、杖踊の道具、反也しに使う大太鼓、小太鼓、笛、鼓、金杖、木刀、薙刀、及び装束などの補修新調。それに練習の際の茶代などで、それらが果て市の助成金補助金、部落からの負担金もあることになつていきます。また少々なことは個人負担としてやっております。

練習の日には三十人位が集まり、若い人達も追々かあり熱心に習っております。

祭典は、四月二十五日ですが、今年は四月二十日の日曜日、昔ながらの賑やかな神幸祭典が行なわれることでしょう。部落民一同楽しみにして準備しています。

会員の方々のご参拝と、ご観覧にお出ることをお待ち申し上げます。

(付) 神踊にうたわれる「神踊歌」多田会長集録をお目にかけます。

託歌

富尾神社奉納 神踊歌 (一部)

会員 多田太郎吉 採録

あまの岩戸のそのはじめ かくれし神をいださんと
八百よろづの神あそび これぞかぐらのはじめなり
これぞかぐらのはじめなり

いや お伊勢おどりはあ おどりおどりになやみ及
れば いや 国も豊かに 千代も栄ゆる目出たさや

いや 東は関東おくまでかえす
老若男女おしなみて まいりげここの目出たさや

いや 榊小枝にしできりかけて
いや お伊勢おどりの目出度さや

はいや かごめせかごめせ とりかごを かえす
はいや やまがらの かごかうちでのうらみごと

はいや かごが こかごでか さてあそはれん

いや めいしよおどりをおどるよはあおどるよ

いや みいでらのかえす かねのひびきにめがさめて
かねにとがなや とりにとがなや

あら おもしろの めいしよや

はいや 春はさくらの そのしたせん

さくらまさりの まりあそび

はいや おいてはおつねそらん

やまのあそびは おもしろや

(採録)